



社大 同窓会

vol.
77

70周年記念イベント及び記念コンサートの公募について

日本社会事業大学は、本年(平成28年11月)70周年を迎えます。

この節目を迎えるに当たり、同窓会では在学生・卒業生が共に参加し、母校創立70周年を祝うため、在学生と卒業生による実行委員会を組織し「日本社会事業大学創立70周年記念イベント」を企画します。イベントは、「記念コンサート」「記念式典」「社大70周年の検証プログラム」「交流会」などを予定していますが、11月の学祭との同時開催(10月29日土曜日・

午後予定)及び多くの在学生が記念イベントに参加できるように、今後スケジュールを調整していくことにしています。

記念コンサートの出演者を募集します。

記念コンサートは、母校関係者からの応募による公募ステージです。出演者は、11月の学祭期間中に開催されるコンサートで、ライブパフォーマンス(1ステージ15分程度・出演料3万円予定)を披露していただきます。多数の応募をお待ちしております。

■応募資格

在校生、卒業生、教職員、役員などの大学関係者。ステージでの生演奏が必須です。出演者・団体のジャンル・演奏形態は問いません。

■応募期間

平成28年4月1日(金)～5月31日(火)。出演者には6月に詳細をご連絡します。

■申込先は次のとおりです。

卒業生の方は、校友室内同窓会事務局に「参加者・団体名・担当名」を連絡ください。

TEL 042(496)3053 FAX 042(496)3051

E-mail k ouyu@jcsu.ac.jp

また、在校生の方は、学生自治会まで。



記念イベントの同窓会事業案です。

在学生・卒業生の実行委員による

○記念植樹 ○社大沿革スライド上映

○記念コンサート／現役・卒業生による公募ステージ

○記念式典 ○社大70年の検証会 ○交流会

などを企画します。



10月31日(日)
学部第11期同窓会
(社大カフェテリア)



10月17日(土)
81年度入学生クラス会(原宿 JUSTEN)



11月7日(土)・8日(日)
北海道支部
秋季セミナーin道北ブロック
(旭川近郊白金温泉)

9月26日(土)
群馬県支部の集い



11月21日(土)・22日(日)
大阪府支部・富山県支部訪問交流会
(越中八尾・野積地区)



12月5日(土) 57会クラス会／本科10期・学部1期(同窓会福祉サロン)



11月8日(日)
東京支部総会・公開研修会(中野サンプラザ)



11月21(土) ワンダーフォーゲル部 45周年記念パーティ(東天紅上野店)

45年前の社大の出来事

「日本社会事業大学四十年史より」

一九七〇(昭和四五)

三 大学本館バリエード封鎖

四 封鎖解除

八 関家新助先生着任

一九七二(昭和四六)

三 木村忠二郎学長退任

四 入試科目から数学削除

四 仲村優一学長代行・校長代行就任・

六 古川孝順先生着任

六 社大再建問題調査委員会報告書

二 「日本社会事業大学の現状と問題点」公表

二 木田徹郎先生退任(死去)



OBIによる朗読劇「ミニシアター いそづ 2015」



9月20(日) 学生児童劇団ピッポ 創立45周年 記念集会(社大)

第46回社大祭実行委員会 委員長 永田奈津美

今までにない社大祭

「そうだ、社大に行こう!」を終えて

今年度は両日とも晴天に恵まれ、五百人以上の来場者の皆様と賑やかな社大祭を開催出来ました!今年度はアーチ作り、外部企画出店、ハッピーウエディング、障害者・高齢者企画に特にこだわりました。入り口にはアーチとして横断幕を張ることを採用し、可愛らしいデザインで誰でも入場しやすい雰囲気を作り上げました。外部企画出店では、社大の外からも企画運営を行って頂き賑に貢献して下さいました。ハッピーウエディングという企画では、脳性マヒを抱える夫婦の結婚式を行いました!お互いの手紙交換やブーケトスなどとても感動的な式となり涙なしには見れない素敵なものになりました。障害者・高齢者企画では社大の講義でもあまりないような「盲導犬」をテーマとした内容でした。当事者の方による講義だったのでリアル

で実のある新鮮な時間を過ごすことが出来ました。

今回、このような大成功を迎えられた背景には教職員・同窓会の皆様、学生みなさんの支えがあったからだといより感謝しております。今後も教職員・同窓会の方のお力添えを頂き、地域の方々とも連携を取り社大祭をきっかけに学生生活も盛り上げていきたいと考えております。



私ですよろしくお願いします



ハッピーウエディング



アーチ(入口)



社大祭開催時 委員会全員による円陣



社大祭実行委員会 男性陣



障害者・高齢者企画



フィーリングカップル

日本社会事業大学 なかよしぐるーぷ



なかよしぐるーぷといえはイモムシさん??
私たちは由来が分かっていませんが、
色んなところに登場します!

なかよしぐるーぷって??

創部1973年。社大が清瀬に移転する以前、原宿に大学があった頃に、障害のある子どもを持つ 親たちの呼びかけで、ボランティアが集まって週末の余暇活動をはじめました。それがきっかけとなり、大学に「ボランティアサークルなかよしぐるーぷ」が誕生しました。その後、現在まで毎週日曜日に子ども会活動としてサークル員が中心となり、お昼ごはん作り・お出かけ・工作・お菓子作り・ゲームダンスなどの活動をしています。

なかよしぐるーぷ 副代表 辻 舞



サマーキャンプでのレクリエーション企画班。
メンバーが楽しめるレクをみんなで1から企画し、
使うものはすべて手作りします!



お昼ごはん作りにて、サークル員と
一緒に計量スプーンを使って醤油をはかることに挑戦中!!

活動のメモ

毎週日曜日の活動ではサークル員考案のタイム
スケジュール・組み合わせの表に基づいて活動中...
これに加え、季節ごとにイベントを企画しています!

春 春遠足 夏 サマーキャンプ
秋 秋遠足 冬 クリスマス会



サマーキャンプオリジナルのTシャツを着て、
小人の仲間になるために小人の帽子を手作りして
ハイビス!!

クリスマス会では毎年1年生が仮装を
して司会進行!今年はサマーキャンプに
関連付けて「王子様」と「白雪姫」に変身!!



今年のサマーキャンプのテーマは「白雪姫と小人たち」!
メンバーはみんな小人役。白雪姫を助けるために王子様探し!!
魔女たたきに挑戦と鏡あっち向いてホイでサークル員に勝ち、
記念撮影!!!

これからの活動

サークル員もメンバーも一緒に楽しむ
ことを第一に活動を企画しています!毎
週日曜日の活動とサマーキャンプでは
サークル員以外のボランティアさんを募
集しているのでぜひ参加してください!!

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

群馬県支部の集い

平成27年9月26日(土)、前回の開催から5年ぶりに「群馬県支部の集い」を開催しました。本県在住の菱沼幹男准教授をお招きし、地域包括ケアの講演や大学の近況報告をしていただきました。夜は懇親会を行い、参加者全員が自己紹介や思い出話をいただくことで親睦を深めました。同窓生によるバンジョーの演奏が場に彩りを添えてくれました。

群馬県支部長 小出省司

今後も、細く長く群馬県支部としての活動を継続していければと思います。同窓生の中で群馬県出身の方や群馬県に縁のある方、もし何か欲しい情報等があればご連絡ください。



東京支部総会・公開研修会

11月8日、中野サンプラザにて公開研修会を開催。卒業生で自治医科大学大学院看護学研究科教授の本田芳香さんを講師に「ヒューマンケアにおける専門性とは」をテーマに学び合い、終了後、支部総会を開催しました。

卒業生が一番多く、講座や研修も色々な団体によって開催されている東京。それゆえに「人と人とがつながり合える機会づくり」をモットーに、本山支部長のもと有志によるゆるやかなネットワークで、次なる企画中です。

東京都支部 熊谷紀良



同窓会大阪府支部・富山県支部訪問交流会の報告 ～富山の人に触れ、「共生」の取り組みに学ぶ～

大阪府支部 西野伸一郎

去る2015年11月21日～22日、大阪府支部・白江支部長をはじめとする5名は富山にお邪魔し、富山県支部の同窓生と交流の機会をもち、また富山市内の福祉サービス事業所の訪問・見学し、取り組みの現状について見聞を深めた。

富山県での障がい者の就労支援等の実践が評価され、2012年に木田賞を受賞した吉田勇次郎さん(学部25・85年卒)を、一昨年大阪府支部同窓会で招き、ご講演いただいた。その縁もあり、今年は富山を訪問することになった。

私たちはまず、吉田さんが理事長を務めるNPO法人愛和報恩会の運営する越中八尾・野積地区にある施設や農場を見学した。法人の運営する食堂「農歩(のっぽ)」で自家製の野菜料理のランチをいただく。次に農作業をしている現場、グループホームなどを見学。利用者の方が種蒔きやしめ縄づくりの作業に従事されていた。野菜は完全無農薬栽培、米は減農薬栽培され、スーパーなどに出荷される。吉田さんの「障がいを持つ人の支援を通して考える『生きる』ために必要なこと」というミニ講義を聴く。

その後、三日三晩踊り続ける「越中八尾 風の盆」の見聞を深めるべく、おわら資料館を訪ねる。

夜は富山県支部の皆さんと越中八尾の「そばカフェ 月のおと」で懇親会をもつ。話は、1970年あたりまでタイムスリップしたり、社会福祉に関わるスタンスの話、同窓生の消息に至るまで、大いに盛り上がる。宿に帰ってからも楽しい話は尽きず、社大校歌まで飛び出し、みんなで斉唱した。

2日目は吉田さんも同行し、年代や障がいの有無を問わない富山型デイサービスを展開する「NPO法人このゆびと一まれ」に見学でお邪魔す



る。「このゆびと一まれ」の年代や障がいの有無を問わず、サービスを提供する取り組みと姿勢は、「共生」をキーワードにした縦割り行政の見直しにつながっていることを学んだ。

富山の同窓生をはじめとする人々に触れ、富山の「共生」に向けた取り組みに学び、富山のおいしい食べ物や文化を楽しませてもらった有意義な交流会となった。お世話になった富山県同窓会支部長の関本さん、吉田さん、台蔵さんにこの場を借りてお礼を申し上げたい。

81年度入学生クラス会

10月17日、81年度入学生クラス会を原宿の旧社大前JUSTENにて開催、会員同士の声掛けもあり46名の参加でした。遠方や海外から、またお土産を手に駆けつけた方もいらして「かわらないね～」とCMさながら笑顔の再会があちこちで交わされました。昔の原宿と比べた手作りの地図、メッセージやアルバムを見ながら、昔話に花が咲き時間が遡ったようなひと時となりました。

私たちのクラスは、卒業後30年を迎える節目の年でした。

在学中にお世話になった先生方や職員の皆様への感謝、物故された方への思いを心に留め、またの再会を約束しました。皆様のご協力に感謝致します。

学部25期生 古賀真希子



学部第11期同窓会

10月31日(土) 社大生協.29名参加。

■皆様からのメッセージ

●今回は清瀬の社事大の食堂での懇親会とは、その素晴らしいアイディアにはいつも頭がさがります。

●皆さん、お元気ですか?私たちの世代はよく「仕事中毒世代」なんて言われませんか?70歳近くになった今も仕事やボランティアで忙しくしている方が多いのでは?

●公立施設(知的)退職後、社協運営の知的障害者就労継続支援B型事業所に勤め一息ついたところ、この春立ち上げたNPO法人のA型事業所の管理者兼サービス管理責任者として、まだ働いています。A型事業所の不正が各地で問題となっている中、社大卒業生としての役割を果たしたいと思います。



ワンダーフォーゲル部創立45周年パーティー開催

菊池浩史(学部34期)

2015年11月21日、ワンダーフォーゲル部創立45周年記念パーティーが東京で開催されました。

今回の会場は中華料理の老舗「東天紅上野店」。ワンゲルOBの海老原俊君(学部49期)がこのお店に就職していたとの縁から、いっなくな豪華な会場で開催することができました。

当日は創立当初のメンバーから現役まで33名が参加。スピーチタイムでは1970年代から現役まで、45年分のエピソードを聞くことができました。

最初はいささかごちなかった雰囲気も、次第に世代を超えて盛り上がり、50周年記念パーティーでの再会を期して閉会となりました。

*ワンゲルOBで会報が送られてきていないという方がいらっしゃいましたら下記までご連絡ください。OB会名簿に登録させていただきます。

ワンゲルOB会事務局 TEL:090-2321-0902

e-mail: k0226@mbd.ocn.ne.jp(菊池)

故 三浦文夫先生 お別れ会開かれる

菱沼事務局長ツイッターより

11/3 アルカディア市ヶ谷にて「故三浦文夫先生お別れ会」。沢山の方々から語られる三浦先生の温かなお人柄と社会福祉への多大な功績。私も学部時代に社会福祉原論をご教授頂き、そのご恩に感謝と共に、母校教員としての重責に喝を頂きました。

故 三浦文夫先生お別れ会



11月18日、俳優座劇場で同窓生中村美苗さんの作品「ラスト・イン・ラブソディ」を観劇した。終末医療・老人問題というやや重いテーマで、初めに診療所の社会福祉士が登場した時は少し違和感も感じましたが、最後までしっかり観ることができました。再演の機会には、医療や福祉に関わる多くの方々に是非お勧めしたい作品である。(社大同窓会 木村)



事務局活動報告



9月 5日 顧問・正副会長・運営委員合同会議

11月 7日 運営委員会

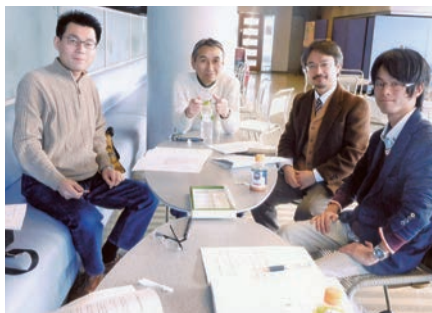
12月19日

顧問・正副会長・運営委員合同会議



大学創立70周年に向けて、同窓会記念事業の取り組みを協議し、多くの在校生、卒業生が参加いただけるような企画にしていこうと確認しました。

1月24日 運営委員会



70周年記念事業について、在校生(自治会)メンバーと意見交換しました。今後も、実行委員会を組織して調整していきます。

12月5日

文京キャンパスの同窓会福祉サロンを
使っていただきました。



57回会クラス会／12月5日(土)／同窓会福祉
サロン／女性3名、男性5名参加
※福祉サロンの使用方法は、会報前号をご
覧ください。

日本社会事業大学教授 阿部實先生 追悼シンポジウム

社会福祉士資格の新たな局面

— 社会福祉士及び介護福祉士法成立 30周年に向けて —

故阿部實先生は、昭和62年～平成2年まで厚生省社会局庶務課社会福祉専門官として「社会福祉士及び介護福祉士法」の施行に当たって尽力されました。日本社会事業大学在任中の平成25年3月19日に急逝されました。本シンポジウムは先生のご遺志を実現しつつ、先生のご遺徳を偲ぶため開催することとしたものです。



【日時】平成28年3月20日(日)13:00～17:00

【場所】日本社会事業大学 清瀬キャンパス

【内容】基調講演

～社会福祉士に期待される役割と養成のあり方を中心に～

講師：松下能万(厚生労働省社会・援護局社会福祉専門官)

シンポジウム：「期待される社会福祉士像」

シンポジスト：

坪 洋一(日本女子大学人間社会学部准教授)

有村 大士(日本社会事業大学社会福祉学部准教授)

森田 智仁(東京都社会福祉士会理事)

コーディネーター：

佐竹要平(日本社会事業大学通信教育科専任講師)

総括：市川一宏(ルーテル学院大学学事顧問)

【連絡・申込先】〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

日本社会事業大学 通信教育科 佐竹要平研究室

tel : 042-496-3216 fax : 042-496-3216

e-mail: satake@jcs.ac.jp

詳しくは本同窓会ホームページのトピックをご覧ください。

同窓会北海道支部会に参加して

さる、平成27年11月7(土)～8日(日)に同窓会北海道支部が開催する「秋季セミナー」に参加しました。

私は以前同窓会事務局であった、校友室に所属して色々な同窓会支部会に参加させていただいておりましたが、北海道支部会については初参加となりました。



今回会場となったのは、旭川白金四季の森ホテルパークヒルズで自然に囲まれたとても静かな会場でした。まず、北海道支部の村上勝彦会長よりご挨拶があり、続いて金子恵美教授より「子ども子育て支援方と児童福祉」の講演が行われました。講演は時間いっぱいまで、行われ、伊藤顧問と数間学生支援部長による「社大及び同窓会の現状」は懇親会の席上に移って行われました。また、その後の二次会では、カラオケで懐かしい歌をうたいながらの楽しい一時が更に懇親を深めました。

2日目は、旭川で有名な北海道療育園(重症心身障害児・者)の施設見学が行われ、職員の明るい対応と施設利用者の笑顔で我々を受け入れて頂きました。

今回、北海道支部会に参加して、同窓生皆さんの社大を思う気持ちを強く感じ取ることができました。是非、機会がありましたら、また、北海道支部会に参加させていただきたいと思いながら旭川を離れました。

学生支援部長 数間文夫



終末医療の経験描く

「ラスト・イン・ラブソディ」

中村美苗
学部55期
(2015年卒)

昨年十一月、東京・六本木の俳優座劇場。終末医療や老いの問題を描いた劇団俳優座の新作舞台「ラスト・イン・ラブソディ」が上演された。

この作品は、劇団員の中村美苗（芸名美苗）さんの書き下ろし作品であり、実際の舞台では路上生活をしてきた患者役でも出演した美苗さんは、この春、福祉計画学科を卒業した同窓生である。

美苗さんの自己紹介をお願いします

私は今年の春、計画学科を卒業致しました社会人編入の中村美苗と申します。在学中は大変お世話になり、ありがとうございました。はじめのうちこそ、果たして続くかどうか不安でしたが、先生方はじめ職員の皆様の懇切丁寧な指導のおかげで、学生生活はとても楽しく、若い

友人もたくさんでき、本当に実り多いものでした。社事大に学んだ二年間は、今や私の貴重な財産となっております。

「ラスト・イン・ラブソディ」というお芝居が上演されましたが

この「ラスト・イン・ラブソディ」という戯曲は、すでに入学前に第一稿を書いておりましたが、大学で様々なことを学ぶうちに、若いソーシャル・ワーカーを登場させることに変更して改稿を重ね、この夏ようやく決定稿を書き上げることができ、十一月に五年振り書き下ろしのお芝居を上演させて頂く運びとなりました。

内容は、生活保護受給者や路上生活者などの行き場のない患者たちの入院を受け入れている無料低額診療所を舞台とした物語です。

人生の終章をどう締め



括ればよいのか？どう生きたら幸せか？という、私が自分自身のこととしてこの十年余り、ずっと考え続けてきたことを、今の社会と重ね合わせて描いたものです。死を扱ったドラマではありませんが、観終わったあと、苦しい気持ちが残るのではなく、心がほんのり温かくなつて頂けるような、苦心したつもりです。もちろん私も出演しました。（不本意ながら途中降板することになってしまいました・・・）

伝えたかったことは何ですか

地縁・血縁といった関係が薄れた今、自分の終末の世話を安心して委ねられる相手のいる人は案外少ないのではないだろうか。誰もが寝たきりや認知症になりたくないと思っている。が、残念ながら殆どの人に、いつかは身体のだこかに病や障害を抱え人の手を借りなければならぬ時が来る。

とかく日本人には他人に迷惑を掛けたくないという思いが強い。

どんな人間でも最期を迎える時に自分の存在が周囲に迷惑を及ぼしていると感じることは辛い。例えどんな生き方をした来た人であっても、自分に何の価値も見いだせないまま絶望と孤独の中で逝って欲しくない。また自分の死が誰にも影響を与えないなどとも思ってしまう。人間は生まれる時も死ぬ時も誰かの手を借りるのは当たり前で、それを迷惑と感じさせてしまう社会の在り様に私は疑問を感じる。と同時に、やはり自分は迷惑を掛けたくないという気持ちもある。

バラバラの個人同士が誰かの死によって繋がった例も見ていて、死を介してではなくもつと早く繋がれるような道筋を模索することが必要ではないかと思う。（公演パンフレットより転載）

今後の抱負を

幸い、実習で伺わせて頂いた更生保護施設で、時間の空いている時だけ働かせて頂けるという、この上なくありがたいお話も進んでおり、嬉しい限りです。今後は大学で学んだことを、細々とでも、しっかり生かして参りたいと思っております。



プロフィール

- ★東京都生まれ。劇団俳優座女優
- ★2010年処女戯曲
「心の止り」俳優座公演
- ★2015年
「ラスト・イン・ラブソディ」
- ★俳優座出前ミュージカル隊のボランティア活動も